

# 支える・つなぐ・あゆむ

## 「きっと誰かが助けてくれる」と信じること

教育支援センター所長 菊谷 愛

令和6年元旦に能登半島で大きな災害が起こりました。発生直後、テレビでは緊急消防援助隊員が「もうちょっとやで。頑張ってや。」「大丈夫やからね。」と呼びかけながら倒壊住宅から被災者を救出する映像が流れ、生き延びる奇跡を実感しました。この出来事から、困難な状況においても信じるのがどれほど重要で、誰かが手を差し伸べてくれることが、人々の生命にとっていかに大きな意味を持つのかを学びました。被災された方々が一日でも早く日常生活を取り戻せることを切に願うばかりです。

当センターのスーパーバイザーである今井たよか公認心理師から、愛着形成のしくみや発達について教えていただきました。愛着（アタッチメント）とは、「付着」つまり「くっつく」ことです。人間、特に小さい子どもは、信頼できる人にくっつくことで守られていると感じて安心し、成長することができるのです。そして多様な経験を積み重ねることで、しだいに自分を調整する力が芽生え、信頼できる人がそばにいないとしても、「自分は守られている」「きっと誰かが助けてくれる」という確かさを、心の中に持つようになります。このことが生きていく上で自分を支える土台になっていくそうです。人を信じる愛着の重要性は、子どもたちの安定感や自己肯定感に深く関わり、困難に立ち向かう力を育む要素となります。

今年度当センターに寄せられた相談内容には、ポストコロナにおける子どもたちへの影響に関するものがあります。マスク生活が感情表現に制約をもたらし、心の豊かさに影響を与えていたり、交流が制限されたことで他者と経験を共有することができず、孤独感や心の不安から不登校を引き起こしたりする状況が伺えます。このような中では、一層子どもたちが信じられる環境や支援のもとで自己を確立し、他者とのつながりを築いていくようにすることが必要となります。そのためには支えとなる大人の理解と存在が特に重要でそれにより子どもたちが安心して過ごせる環境をつくるのが大切です。

当センターでは、不安や悩みを抱えた子どもや保護者に寄り添い、安心して過ごせる環境のもとで、専門的な教育相談をはじめ、子どもの発達や課題を踏まえた適切な支援に努めています。信頼と支援が根付いた環境での学びを通して、子どもたちに「人間は決して一人ではないし、きっと誰かが助けてくれるものだ」ということを実感してほしいと思います。今後も本市の子どもたちの笑顔が輝く教育を目指して、不登校対策や教育相談、特別支援教育事業の充実・発展に向けて、学校や関係機関等と連携を深めながら職員が一丸となり取り組んでまいります。多くの皆様に当センターをご活用いただければ幸いです。

## 令和5年度 大津市教育支援センター 事業報告

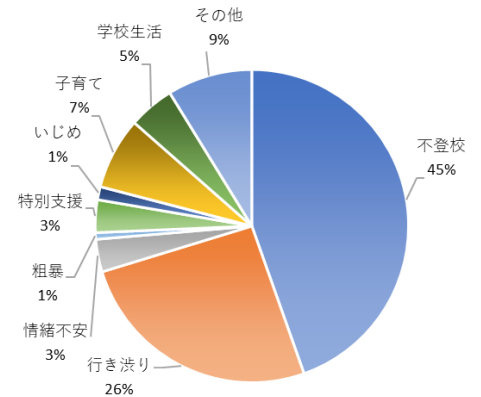
令和４年度より大津市教育支援センターとしてスタートし、子ども・保護者・学校支援の充実を目指してきました。教育相談、不登校対策、特別支援教育を柱に報告いたします。

※各事業等の数値は令和6年1月末時点のものです

☒ ☒ 教育相談関連の事業

電話相談について（月～土、9:00～17:00）

○今年度の電話相談 804 件でした。そのうち、保護者からの相談件数は 148 件で、主な相談内容は「不登校」と「行き渋り」となっています。市立小・中学校だけでなく、国立、私立学校の保護者からの相談も増えています。



来所面接相談について（月～土、9:00～16:30）

○今年度の来所面接相談の延べ件数は 1437 件でした。内訳は、保護者・本人が 1435 件、学校が 2 件となっています。今年度は、毎週同じ曜日・時間に行う親子並行面談の面談枠が 12 月末でほぼいっぱいとなり、面談を隔週で行ったり、面談の開始を少し待っていただいたりしました。さらに単発面談が昨年度は 11 件であったのに対して、今年度は 45 件あり、学校現場と同様にカウンセラーへの相談ニーズが高まっていることが伺えます。

**■■ 不登校対策関連の事業**

## 教育支援ルーム「ウイング」について

○小学校ウイングが和邇文化センターから小野児童館に移り、自然豊かな環境の中、グラウンドで活動したり、ウイングぜぜ・せたの児童と交流したりすることができました。

○中学校ウイング和邇(コスモ)を開設したことにより北部地域の生徒が通いやすくなり、明日都(レイク・スカイ)の生徒と合わせて過去最多の36人となりました。

○小・中学生とも学校のタブレットを使って学習する姿が見られました。またウイングで学校の定期・実力テストを受験する中学生もいました。



### ◆令和5年度の開設状況

|     | ルーム名     | 場所        | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 通級する児童・生徒数 |    |    |    |    |    | 合計 |
|-----|----------|-----------|---|---|---|---|---|------------|----|----|----|----|----|----|
|     |          |           |   |   |   |   |   | 1年         | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |    |
| 小学生 | ウイングおの   | 小野児童館     |   | ○ | ○ |   | ○ | 0          | 3  | 1  | 4  | 3  | 2  | 42 |
|     | ウイングぜぜ   | 生涯学習センター  |   | ○ | ○ | ○ |   | 0          | 2  | 4  | 5  | 5  | 4  |    |
|     | ウイングせた   | 瀬田北市民センター | ○ |   |   | ○ | ○ | 0          | 0  | 1  | 4  | 2  | 2  |    |
| 中学生 | ウイング・レイク | 明日都浜大津    | ○ |   | ○ | ○ | ○ | 4          | 6  | 2  |    |    |    | 36 |
|     | ウイング・スカイ |           | ○ | ○ |   | ○ | ○ | 2          | 6  | 6  |    |    |    |    |
|     | ウイング・コスモ | 和邇文化センター  |   | ○ |   |   | ○ | 2          | 5  | 3  |    |    |    |    |

### アウトリーチ型支援について

○不登校（傾向）の状況にある子どもについて、その長期化・固定化を防ぐため、教育支援員（教員OB）と公認心理師とが当該学校を訪問し、要因や背景等の見立てを行い、ウイングや学校、市民センターなどで個に応じた支援を行いました。今年度から中学生対象のアウトリーチも開始し、小学校で87件、中学校は南部地域を中心に165件の依頼がありました。

### 専門医によるこころとからだの相談

○今年度より、学校だけでは対応が難しい医療面の課題を抱えた長期欠席の児童生徒ならびにその家族などへの支援について、学校が専門医に相談し助言を受けることで、疾患や治療に対し正しく理解をし、適切な対応につなげることができました。小・中学校で11件、教育委員会で1件の相談があり、ニーズが高まっています。

### ■ 特別支援教育関連の事業

### 就学相談について

○特別支援学級への入級や特別支援学校への進学についての相談を実施しました。夏休みには就学相談会を10回実施し、多くの保護者や学校関係者が参加し、じっくりと話し合いをしました。

#### ◆相談件数の推移

| 区分  | R 3   | R 4   | R 5   |
|-----|-------|-------|-------|
| 就学前 | 208 人 | 251 人 | 237 人 |
| 小学生 | 238 人 | 276 人 | 280 人 |
| 中学生 | 11 人  | 18 人  | 27 人  |
| 合 計 | 457 人 | 545 人 | 544 人 |

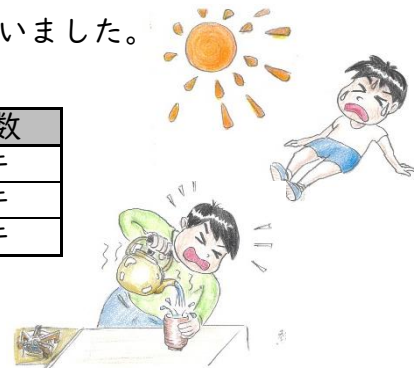


### ことばの教室について

○ことばに障害や課題（言語発達の遅れ、吃音、発音、コミュニケーションの苦手さなど）のある幼児・児童・生徒を対象に、個々の状況に応じた支援を行いました。

#### ◆ことばの教室の利用状況

| 教室名  | 場所       | 通級者数 | 指導件数  |
|------|----------|------|-------|
| 北部教室 | 志賀南幼稚園内  | 50 名 | 452 件 |
| 中央教室 | 明日都浜大津1階 | 45 名 | 523 件 |
| 南部教室 | 膳所小学校内   | 89 名 | 932 件 |



### 特別支援教育巡回訪問および参画型支援について

○小中学校を対象に特別な支援を必要とする児童生徒の状況を把握し、学校での具体的な支援方法について相談・助言を実施しました。

◆教育支援員（教員OB）や公認心理師・発達相談員による巡回訪問 【187 回実施】

◆教育支援員（教員OB）が指導力向上を目的に学級指導に継続的に参画 【29 回実施】

◆多職種の相談員（通級指導教室担当教諭や特別支援学校教諭等）による専門的な巡回相談 【189 回実施】

# 令和6年度 大津市教育支援センター 主な新規事業

## 校内ウイングの設置

現在各学校において余裕教室などを利用して不登校児童生徒への支援をしています。これを令和6年度から「校内ウイング」として運用します。

モデル校4校を中心に、市のウイングと連携し、そのノウハウを取り入れながら、全ての児童生徒が安心して学べる環境や取り組みの効果を検証していきます。

## 中学校ウイング瀬田の設置

中学生対象のウイングは、現在北部と中部の2か所ですが、令和6年度から瀬田東市民センターに「中学校ウイング瀬田」を設置します。月曜と水曜のそれぞれ午前に開設し、教育支援員と公認心理師とが支援にあたります。

南部の不登校生徒が通いやすくなるだけでなく、学校以外の居場所や学びの機会になると考えています。



市民センター前の公園で運動や散歩等を実施



## ●不登校支援の三段階

各校での不登校対策にお役立てください。

滋賀県の  
目指す姿

大津の取組

段階に応じた不登校対策

第3  
段階

全ての児童生徒の  
学びの場を確保

個別支援

不登校  
児童生徒  
(年間30日以上欠席)  
R4年度末450名  
(小学校)171名  
(中学校)279名

安心できる居場所やつながりを確保するとともに、児童生徒と保護者に寄り添い、信頼関係を構築する

- ◎教育支援ルーム「ウイング」
- ◎アウトリーチ型支援
- ◎関係機関・フリースクール等との連携

第2  
段階

チーム学校で支援する

不登校の  
早期発見・早期対応

休み始めた児童生徒  
(月7日以上長期欠席)

巡回相談等による早期のアセスメントに基づき支援を検討し対応する。学校組織として支援するとともに専門家や関係機関を含めチームで子どもを支える。

- ◎校内ウイング
- ◎アウトリーチ型支援
- ◎特別支援教育巡回訪問(参画型)
- ◎専門医によるこころとからだの相談
- ◎スクールカウンセラー・SSWの参画

第1  
段階

みんなが安心して学べる学校

全ての児童生徒を対象にした不登校予防のアプローチ

全ての児童生徒

教育相談体制の充実等による不登校の未然防止の取組を推進し、全ての児童生徒が安心して学び過ごせる環境や学校づくりを目指す。子どもの不安や悩み、変化を敏感に感じることができる教員を目指す。

- ◎授業改善の取組(笑顔輝く大津の教育を目指す3つのステップ)
- ◎特別活動、特別支援教育・人権教育に関する研修 ◎ICTの活用
- ◎校内ウイング
- ◎教育相談に関する研修・講演会
- ◎スクールカウンセラー(心の健康授業)

## あ と が き

先日市内の保育園を訪れたとき、20年前に担任したAさん(今は保育士)に会いました。「久しぶり」と挨拶も程ほどに、私は園児の観察に集中しました。帰る道すがら、ふと彼女と一緒にクラスだったB君のことを思い出しました。彼は中学2年時に転入し、家はAさん宅のはず向かい。B君は間もなく不登校になり、私は中学3年時に二人を担当しました。家庭訪問によく行きましたが、B君はなかなか学校に足が向きません。入試も終わり卒業式の練習が始まったとき、Aさんは私に「卒業式にB君を連れて来るし」と言いました。当日朝、教室に行くと、何とB君が自席に座っており、私は式前から感無量でした。家が近所でクラスメートでもあるB君のことをずっと気に掛けてくれていたAさんに心から感謝しました。あのときもしB君が「きっと誰かが助けてくれる」と信じていたとしたら、それは間違いなくAさんだったことでしょう。